

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 31 年 2 月 9 日 13 時 45 分～15 時 20 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 49 問で解答時間は正味 1 時間 35 分である。

2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した
選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

正解は「e」であるから答案用紙の (e) をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	(c)	(d)	(●)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ (c)
(d)	(d)
(e)	(●)

1 インフォームド・コンセントについて正しいのはどれか。

- a 同意後は撤回できない。
- b 医師法に定められている。
- c 文書で意思を確認すればよい。
- d 医療従事者の責任回避が目的である。
- e 患者の主体性を重んじて行う行為である。

2 ヘルシンキ宣言で述べられているのはどれか。

- a 安楽死の条件
- b 健康の定義
- c 人を対象とする医学研究の倫理原則
- d プライマリヘルスケア
- e ヘルスプロモーション

3 肺炎で入院中の患者の診療記録を以下に示す。

S：咳も治まってきましたし、熱も下がっているようです。①今日はとても体調が良いんですよ。

O：②体温 36.2℃、血圧 120/82 mmHg、脈拍 88/分、整。呼吸数 16/分。

呼吸音 清明、明らかな副雑音は聴取しない。

心音 I 音 異常なし、II 音 異常なし、III 音、IV 音は聴取しない、心雑音は聴取しない。

【血液検査所見】

WBC 9,800(前回 16,800) neutro 65%(前回 92%)

AST 30、ALT 32、LD 245、BUN 16、Cr 0.6

③喀痰培養結果は H. influenzae。

A：④細菌性肺炎：自覚症状、検査所見ともに改善傾向、抗菌薬の効果あり。

P：⑤本人は週末まで入院を希望している。

治療開始 3 日目なので抗菌薬の投与を継続していく。胸部エックス線写真と血液検査の予定を A 医師に確認して決める。

下線部のうち SOAP の記載法にあてはまらないのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

4 病原体と感染予防策の組合せで適切でないのはどれか。

- a HIV ————— 標準予防策〈standard precautions〉
- b ヒゼンダニ ————— 飛沫予防策〈droplet precautions〉
- c 麻疹ウイルス ————— 空気予防策〈airborne precautions〉
- d *Clostridium difficile* ————— 接触予防策〈contact precautions〉
- e インフルエンザウイルス ————— 飛沫予防策〈droplet precautions〉

5 成人と比較したときの乳児の特徴はどれか。

- a 尿濃縮力が低い。
- b 体重あたりの体液の割合が少ない。
- c 体重あたりの水分必要量が少ない。
- d 体表面積あたりの不感蒸泄量が少ない。
- e 体重あたりのエネルギー必要量が少ない。

6 医療面接で開放型の質問を用いる利点はどれか。

- a 医療面接を短時間で行える。
- b システムレビューを省略できる。
- c 主訴以外の情報を網羅的に得られる。
- d 認知機能障害のある患者でも情報が得られやすい。
- e 患者が関心を持っている事項を把握しやすくなる。

7 心拍出量増加、体血管抵抗減少、中心静脈圧低下および肺動脈楔入圧低下の血行動態を示すのはどれか。

- a 緊張性気胸
- b 出血性ショック
- c 心原性ショック
- d 心タンポナーデ
- e アナフィラキシーショック

8 腹部エックス線写真(別冊No. 1 ①～⑤)を別に示す。

腹部の診察で波動が認められると考えられるのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

別 冊

No. 1 ①～⑤

9 発語は流暢で話し言葉の理解も良好だが、復唱が不能なのはどれか。

- a 失 読
- b 純粹語聾
- c 伝導失語
- d Broca 失語
- e Wernicke 失語

- 10 出生後 30 分を経過した在胎 40 週の新生児で異常を疑う所見はどれか。
- a 直腸温 37.1℃
 - b 心拍数 120/分
 - c 収縮期血圧 60 mmHg
 - d 呼吸数 44/分
 - e SpO₂ 85 % (room air)
- 11 救急外来を受診した感染症が疑われる患者で敗血症の存在を考慮する評価項目として、意識レベルとともに有用なのはどれか。
- a 体温と脈拍
 - b 体温と血圧
 - c 脈拍と血圧
 - d 脈拍と呼吸数
 - e 血圧と呼吸数
- 12 シリンジを用いた静脈採血について適切なのはどれか。
- a 抜針してから駆血帯を外す。
 - b 拍動を触れる部分を穿刺する。
 - c 採血後すぐに針にキャップをする。
 - d 皮膚面に 15～30 度の角度で穿刺する。
 - e 透析用動静脈シャントがある場合は同じ腕で行う。

- 13 疾患と腹部診察所見の組合せで正しいのはどれか。
- a 肝膿瘍 ————— 叩打痛
 - b 胆嚢炎 ————— 脾腫大
 - c 臍尾部痛 ————— 胆嚢触知
 - d 腹部大動脈瘤 ————— 腹壁静脈怒張
 - e Krukenberg 腫瘍 ——— 拍動触知
- 14 婦人科診察の双合診で正しいのはどれか。
- a 碎石位で行う。
 - b 正常卵管を触知する。
 - c 外陰部視診の前に行う。
 - d 膀胱に尿をためて行う。
 - e Douglas 窩は外診指で触診する。
- 15 内視鏡下生検により採取された検体で H-E 染色による病理組織診断を行うために、検体を直ちに浸すのはどれか。
- a 蒸留水
 - b 重曹水
 - c 酢酸溶液
 - d パラフィン
 - e ホルマリン溶液

16 診療ガイドラインに示されている「推奨」について正しいのはどれか。

- a 推奨の内容は5年間変更されない。
- b 弱い推奨は診療には用いてはならない。
- c 推奨の内容はすべての患者に適用される。
- d 強い推奨に反する診療は行ってはならない。
- e 「～は行わないほうがよい」という推奨がある。

17 発熱患者で菌血症の存在を最も示唆するのはどれか。

- a 悪 心
- b 頭 痛
- c 関節痛
- d 悪寒戦慄
- e リンパ節腫脹

18 統合失調症を強く示唆する患者の発言はどれか。

- a 「自分には霊がとりついている」
- b 「(天井のしみを指さして)虫が這っている」
- c 「自分は癌にかかっているので、明日には死ぬ」
- d 「自分の考えることがすべて周囲の人に伝わっている」
- e 「外に出ると通行人が自分を見るので、外出できない」

- 19 麻疹について誤っているのはどれか。
- a 潜伏期間は10～14日である。
 - b 発熱は二峰性の経過を取る。
 - c 口腔粘膜に白色斑がみられる。
 - d 皮疹は癒合する。
 - e 解熱とともに皮疹は消失する。
- 20 関節リウマチの関節外病変はどれか。
- a 外陰部潰瘍
 - b 間質性肺炎
 - c 後腹膜線維症
 - d 虚血性視神経症
 - e 大動脈弁閉鎖不全症
- 21 緊張性気胸に対してまず行うべき治療はどれか。
- a 鎮痛薬投与
 - b 抗不安薬投与
 - c 人工呼吸器装着
 - d 緊急胸腔鏡下手術
 - e 胸腔ドレーン挿入

- 22 尿道カテーテル留置の目的で最も適切なのはどれか。
- a 尿路感染の予防
 - b 介護負担の軽減
 - c 尿蛋白量の測定
 - d 患者の長期安静保持
 - e 水腎症を伴う慢性尿閉の治療
- 23 健康日本 21(第二次)の最終目標と位置付けられているのはどれか。
- a 生活習慣及び社会環境の改善
 - b 健康寿命の延伸と健康格差の縮小
 - c 健康を支え、守るための社会環境の整備
 - d 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
 - e 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上
- 24 成人の生活習慣病の発症予防のために改善すべき習慣はどれか。
- a 塩分摂取量 12 g/日
 - b 食物繊維の摂取が 50 g/日
 - c 肉類より魚介類を多く摂取
 - d 30 分以上の運動を 2 回/週
 - e ビール 350 mL/日を 2 回/週

25 55歳の男性。腰痛を主訴に夜間外来を受診した。今朝から持病の腰痛が増悪し、市販の鎮痛薬を3回内服しても改善しないため受診した。「以前から指摘されている腰椎の椎間板ヘルニアによる痛みだと思う。痛みが取れないと仕事ができない」と訴えている。意識は清明。体温 36.2℃。脈拍 64/分、整。血圧 146/82 mmHg。第4腰椎レベルの傍脊柱筋に圧痛を認める。神経診察に異常を認めない。担当医は筋・筋膜性の腰痛の可能性が高いと判断し、消炎鎮痛薬の内服を提案したところ、患者は「飲み薬は効かないので、よく効く注射をしてくれなければ帰らない」と訴えた。半年前の診療記録にも、同様のエピソードでペンタゾシンの筋肉注射を受けて帰宅した記録が残っている。

まず行う対応として適切なのはどれか。

- a 今後の診療を受け付けないように手配する。
- b 薬物中毒として警察に届け出る。
- c 5%ブドウ糖液を筋肉注射する。
- d ペンタゾシンを筋肉注射する。
- e さらに詳しく話を聞く。

26 80歳の男性。咳嗽を主訴に受診した。昨日の朝食後に咳嗽が出現し、同時に右臼歯の菌冠がないことに気付いたため来院した。意識は清明。身長 162 cm、体重 55 kg。体温 36.8℃。脈拍 72/分、整。血圧 120/70 mmHg。呼吸数 18/分。心音と呼吸音とに異常を認めない。胸部エックス線写真(別冊No. 2A、B)を別に示す。

まず行うべきなのはどれか。

- a 抗菌薬投与
- b 胸腔鏡下手術
- c 気管支内視鏡
- d 自己咳嗽誘発
- e 上部消化管内視鏡

別 冊 No. 2 A、B

27 26歳の男性。胸痛を主訴に来院し入院した。出張で午前中に飛行機に乗っていたところ、右肩に軽い痛みが出現した。到着後の空港で歩行中に呼吸困難を自覚し、その後も症状が持続したため、近くの病院を受診した。精査の結果、自然気胸の診断で入院となり、胸腔ドレーンが挿入され持続吸引ドレナージが行われた。

翌朝、担当医が診察したところ、胸腔ドレーンが前日より 20 cm 程度抜け、ドレーン先端から 5 cm 程度が体内にとどまっている状態であった。患者は呼吸困難を訴えず、呼吸数 16/分、SpO₂ 99%(room air)である。

まず行うべき対応はどれか。

- a 持続吸引を中止する。
- b 動脈血ガス分析を行う。
- c 胸部エックス線撮影を行う。
- d 持続吸引圧を 2 倍に上げる。
- e 胸腔ドレーンを 20 cm 押し込む。

28 23歳の女性。左乳房にしこりを自覚したため受診した。穿刺吸引細胞診および組織診の結果、乳癌と診断した。担当医は本人と母親に対して、検査結果と診断および今後の治療について説明することとなった。

悪い知らせを伝える際の SPIKES モデルの「P」に相当するのはどれか。

- a 防音性の高い個室で面談する。
- b さらに詳しい説明を希望するか尋ねる。
- c 今後の治療の選択肢について説明する。
- d 病気についての患者の理解度を確認する。
- e ショックを受けているであろう心情に寄り添う。

29 32歳の男性。左前胸部痛を主訴に来院した。4日前から38℃前後の発熱があり市販の総合感冒薬を服用していた。2日前から左前胸部に痛みを感じるようになったため心配になり受診した。痛みは持続性のじりじりする感じの痛みで、いつから症状があったかははっきりしないが、少しずつ症状が増悪してきており、現在は深く息を吸うとやや増強するという。心電図(別冊No. 3)を別に示す。

最も予想される聴診所見はどれか。

- a I 音の亢進
- b II 音の奇異性分裂
- c 心膜摩擦音
- d 連続性雑音
- e 頸部に放散する収縮期雑音

別 冊

No. 3

30 60歳の男性。妻に黄疸を指摘され来院した。45歳時に糖尿病と診断され経口糖尿病薬を服用している。意識は清明。体温36.8℃。脈拍72/分、整。血圧128/76 mmHg。呼吸数14/分。眼瞼結膜は軽度貧血様で、眼球結膜に黄染を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦で、肝・脾を触知しない。右季肋部に軽度の圧痛を認める。下腿に浮腫を認めない。血液所見：赤血球356万、Hb10.8 g/dL、Ht35%、白血球7,500、血小板38万。血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dL、アルブミン4.2 g/dL、総ビリルビン5.8 mg/dL、直接ビリルビン3.7 mg/dL、AST48 U/L、ALT65 U/L、ALP689 U/L(基準115~359)、 γ -GTP243 U/L(基準8~50)、尿素窒素45 mg/dL、クレアチニン3.5 mg/dL、血糖153 mg/dL、HbA1c7.4%(基準4.6~6.2)。CRP1.1 mg/dL。

まず行うべき検査はどれか。

- a 腹部造影CT
- b 腹腔鏡下肝生検
- c 腹部超音波検査
- d 磁気共鳴胆管膵管撮像(MRCP)
- e 内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査(ERCP)

31 48歳の女性。転倒による大腿骨骨折のため、昨日入院した。昨晩は夜間に全く眠らない状態が続き、今朝から手指と上肢に粗大な振戦が出現した。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴はない。20歳から飲酒を開始し、32歳から夫の母親を自宅で介護するようになり、飲酒する頻度が増えた。38歳から連日昼間も飲酒するようになり、45歳からは1日に焼酎500 mL以上を飲酒していた。体温36.7℃。脈拍68/分、整。血圧140/88 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球392万、Hb 13.0 g/dL、Ht 42%、白血球7,500、血小板17万。血液生化学所見：総蛋白7.8 g/dL、アルブミン3.8 g/dL、総ビリルビン1.0 mg/dL、AST 140 U/L、ALT 80 U/L、 γ -GTP 210 U/L(基準8~50)、総コレステロール295 mg/dL、トリグリセリド240 mg/dL。頭部CTで異常を認めない。

数日以内に出現する可能性の高い症状の予防に適切な薬剤はどれか。

- a 選択的セロトニン再取込み阻害薬
- b ベンゾジアゼピン系薬
- c 精神刺激薬
- d 抗精神病薬
- e 抗酒薬

32 11歳の男児。下腿の皮疹を主訴に母親に連れられて来院した。2日前から下腿に皮疹が出現し、昨日から腹痛および膝関節痛を訴えている。体重37 kg。体温36.5℃。脈拍80/分、整。呼吸数20/分。両下腿に皮疹を認める。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。咽頭発赤なし。頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦で臍周囲に軽度圧痛を認める。左下腿の写真(別冊No. 4)を別に示す。

この患児で認められる皮膚所見はどれか。

- a 無疹部を加温すると皮疹が出現する。
- b 皮疹を摩擦すると容易にびらんを生じる。
- c 皮疹の上からガラス板で圧迫しても退色しない。
- d 皮疹を擦過すると擦過部に一致して膨疹が生じる。
- e 無疹部に紫外線を照射すると病変部と同じ皮疹が出現する。

別 冊

No. 4

33 4か月の乳児。RSウイルス感染症による呼吸障害のため入院している。呼吸・心拍モニターのアラームが鳴ったため研修医、指導医および看護師で患児を診察に行ったところ全身にチアノーゼを認めた。気道確保をして呼吸を確認したが、自発呼吸を認めない。心電図モニターでは心静止である。末梢静脈路は確保されており、心肺蘇生の備品は病室に準備されている。

直ちに行うべきなのはどれか。

- a 酸素投与
- b 気管挿管
- c 電気ショック
- d アドレナリン投与
- e 胸骨圧迫と人工呼吸

34 A 25-year-old man comes to your clinic complaining of abdominal pain for the past two days. Yesterday, the pain was periodic and located around the periumbilical area. Today the pain is persistent and located in the right lower quadrant. He feels feverish. He does not smoke or drink alcohol. His body temperature is 37.7 °C, blood pressure is 126/62 mmHg, and pulse rate is 94/min, regular.

Which one of the following should be done next?

- a perform a CRP test
- b examine for peritoneal irritation
- c administer a broad-spectrum antibiotic
- d perform an abdominal CT with contrast
- e perform an upper gastrointestinal endoscopy

35 37歳の初産婦(1妊0産)。妊娠30週に両下腿浮腫の増悪を主訴に来院した。これまでの妊娠経過は順調であったが、妊娠27週ころに両下腿浮腫を生じ、28週ころから浮腫の増悪を認めた。意識は清明。脈拍72/分、整。血圧160/104 mmHg。尿検査で蛋白2+である。ノンストレステスト(NST)はreactiveで、子宮収縮は認めない。入院後安静にして血圧を再検査したところ、164/106 mmHgであった。

投与すべき薬剤はどれか。

- a β_2 刺激薬
- b ループ利尿薬
- c 硫酸マグネシウム
- d ドパミン受容体作動薬
- e ベンゾジアゼピン系抗不安薬

36 20歳の男性。右足関節の変形と疼痛のため救急車で搬入された。会社員で、サッカーのクラブチームに所属している。サッカーの試合中に他の選手と接触して受傷し、歩行困難となったため救急車を要請した。受傷時の足関節の肢位は不明であった。既往歴、生活歴、家族歴に特記すべきことはない。搬入時(受傷2時間後)の意識は清明。体温36.9℃、心拍数100/分、整。血圧124/76 mmHg。呼吸数14/分。SpO₂ 100%(鼻カニューラ1 L/分酸素投与下)。右足関節全体に腫脹と圧痛を認める。右足関節周囲に開放創はない。足背動脈は左右差なく触知可能であり、右足趾の自動屈曲伸展運動は可能で、感覚に異常を認めない。右足関節以外に異常を認めない。右足関節単純エックス線写真(別冊No. 5)を別に示す。

初期対応として適切なのはどれか。

- a テーピング固定
- b 抗菌薬投与
- c 血行再建
- d 大量輸液
- e 整 復

別 冊 No. 5

37 21歳の男性。発熱と咳嗽を主訴に来院した。体温 39.2℃。脈拍 108/分、整。血圧 120/70 mmHg。呼吸数 16/分。SpO₂ 97 % (room air)。血液検査のため、右肘正中皮静脈に採血針を穿刺した直後に気分不快を訴えた。顔面蒼白となり、全身に発汗を認めたため、直ちに採血を中止した。

次に行うべき処置はどれか。

- a 仰臥位にして下肢を挙上する。
- b 採血部位に冷湿布を貼付する。
- c アドレナリンを静脈投与する。
- d 呼吸回数を増やすように指導する。
- e 採血部位に局所麻酔薬を皮下注射する。

38 75歳の男性。胃癌の手術後に在宅療養を行っている。3年前に胃癌で胃全摘術を受けた。1年前に腹膜播腫、肺および肝転移を診断されたが、抗癌化学療法は選択しなかった。訪問診療で経過は安定していたが、2週間前から食欲不振が出現し、在宅で1日1,700 mLの維持輸液が開始された。その後徐々に床上で過ごすことが多くなり、昨日から呼吸困難を訴えるようになった。排尿は1日4、5回で、1回尿量100 mL程度である。妻と長男夫婦との4人暮らしで、患者本人と家族は自宅での療養の継続を希望している。身長165 cm、体重43 kg。体温36.2℃。脈拍96/分、整。血圧118/76 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂ 96 % (room air)。両側胸部に coarse crackles と軽度の wheezes を聴取する。上腹部に径3 cmの腫瘤を触知するが圧痛はない。両下腿に著明な浮腫を認める。血液所見(2週間前)：赤血球308万、Hb 7.4 g/dL、Ht 28 %、白血球10,300、血小板18万。血液生化学所見(2週間前)：総蛋白5.8 g/dL、アルブミン2.3 g/dL、尿素窒素26 mg/dL、クレアチニン1.3 mg/dL、血糖89 mg/dL、Na 134 mEq/L、K 4.4 mEq/L、Cl 95 mEq/L。

まず行うべきなのはどれか。

- a 嚥下訓練
- b 酸素投与
- c 輸液の減量
- d 緊急血液透析
- e 緩和ケア病棟の紹介

39 5歳の男児。走るのが遅いことを心配した母親に連れられて来院した。1年前から転びやすいことに母親は気づいていた。先日の運動会で他の子どもに比べて走るのが著しく遅いことが心配になり来院した。周産期、乳児期には特記すべきことはない。母方叔父が心不全により25歳で死亡。身長104 cm、体重17 kg。体温36.8℃。咽頭に発赤を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腱反射に異常を認めない。下腿の肥大を認める。血液所見：赤血球468万、Hb 12.6 g/dL、Ht 37%、白血球9,800、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白6.2 g/dL、アルブミン3.8 g/dL、AST 436 U/L、ALT 478 U/L、CK 12,300 IU/L (基準46~230)、尿素窒素9 mg/dL、クレアチニン0.4 mg/dL。

患児に認められる所見はどれか。

- a Albright 徴候
- b 登はん性起立
- c スカーフ徴候
- d Horner 徴候
- e 筋強直現象

次の文を読み、40、41の問いに答えよ。

40歳の女性。動悸を主訴に来院した。

現病歴 : 2か月前から動悸を自覚している。当初は、買い物などで荷物を持って5分ほど歩くと動悸を感じていた。10日前から①家事で少し動いても動悸を感じるようになった。友人に話したところ、②病院を受診した方が良いと言われた。③動悸の性状は、脈が速くなる感じである。症状は徐々に強くなっていて、このままだとさらに悪化するのではないかと思っている。④父が脳梗塞になり、心臓の病気が原因と聞いていた。⑤自分が寝たきりになると家事が十分できなくなるため、心臓の病気を心配している。その他、軟便がある。また、以前より暑がりになった。体重は最近2か月で3kg減少した。

既往歴 : 特になし。職場の健診で心電図異常を指摘されたことはない。

生活歴 : 夫と小学生の娘との3人暮らし。喫煙歴はない。飲酒は週1回ビール350mL/日を10年間。仕事は事務職。

家族歴 : 父親が高血圧症、脳梗塞。母親が脂質異常症。

月経歴 : 初経13歳。周期28日型、整。

40 解釈モデルを示しているのは下線のうちどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

現 症 : 意識は清明。身長 160 cm、体重 52 kg。体温 37.1℃。脈拍 104/分、整。血圧 128/66 mmHg。呼吸数 16/分。SpO₂ 97 % (room air)。瞳孔径は両側 3.5 mm で、対光反射に異常を認めない。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。びまん性の甲状腺腫大を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

41 身体診察で認められることが予想されるのはどれか。

- a 多 毛
- b ばち指
- c 手指振戦
- d 眼瞼下垂
- e 頸部リンパ節腫大

次の文を読み、42、43の問いに答えよ。

79歳の女性。上腕から背中中の痛みとこわばりを主訴に来院した。

現病歴 : 2週間前に、両側上腕から背中にかけての痛みとこわばりが出現した。

1週間前から右側の拍動性の頭痛を自覚している。また、夕方から夜にかけて38℃台の発熱があった。起床時に背中中のこわばりがひどく、寝返りができないため受診した。2週間で体重が1.5 kg 減少した。悪心、嘔吐はなく、四肢のしびれや脱力はない。

既往歴 : 高血圧症で内服治療中。片頭痛の既往はない。

生活歴 : 独居生活。喫煙歴と飲酒歴はない。

現 症 : 意識は清明。体温 38.9℃。脈拍 104/分、整。血圧 142/80 mmHg。呼吸数 14/分。眼瞼結膜は貧血様である。右側頭部に索状の腫脹と圧痛を認めるが、皮疹は認めない。項部硬直はなく、頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。圧痛や腫瘤を認めない。ばち指、Osler 結節および下腿浮腫を認めない。両側の上腕に把握痛を認める。関節に腫脹と圧痛を認めない。

42 まず確認すべきなのはどれか。

- a 視力低下
- b 歯科治療歴
- c 気分の落ち込み
- d 頭痛薬の濫用歴
- e 片頭痛の家族歴

検査所見 : 赤沈 102 mm/ 1 時間。血液所見：赤血球 301 万、Hb 9.6 g/dL、Ht 29 %、白血球 9,800、血小板 47 万。血液生化学所見：総蛋白 5.9 g/dL、AST 29 U/L、ALT 28 U/L、LD 321 U/L (基準 176～353)、CK 38 U/L (基準 30～140)、尿素窒素 18 mg/dL、クレアチニン 0.7 mg/dL、血糖 102 mg/dL、Na 138 mEq/L、K 4.9 mEq/L、Cl 100 mEq/L。免疫血清学的所見：CRP 8.6 mg/dL、リウマトイド因子〈RF〉陰性、抗核抗体陰性、CH₅₀ 52 U/mL (基準 30～40)。胸部エックス線写真で異常を認めない。

43 精査の結果、副腎皮質ステロイドの内服加療を行うこととした。

治療に伴い注意すべき検査項目はどれか。

- a 血 糖
- b 血小板
- c 総蛋白
- d 血清補体価
- e クレアチニン

次の文を読み、44、45の問いに答えよ。

67歳の男性。心停止の状態で見急車で搬入された。

現病歴： 今朝6時頃、妻が寢室に起こしに行った際には返答があったが、1時間経っても起きて来なかった。再度呼びに行くと目を閉じたままで反応がないため、午前7時に救急車を要請した。5分後に救急隊が到着し、心停止と判断した。かかりつけ医には連絡せず、心肺蘇生を行いながら救命救急センターに搬送した。

44 救命救急センターで pulseless electrical activity (PEA) と判断し、心肺蘇生を継続した。研修医が胸骨圧迫を継続する傍ら、指導医が薬物投与のため静脈路の確保を行うこととした。

静脈路確保で第一選択となる部位はどこか。

- a 大腿静脈
- b 内頸静脈
- c 鎖骨下静脈
- d 大伏在静脈
- e 肘正中皮静脈

既往歴 : 20年前から糖尿病、高血圧症と診断され、内服治療を続けていた。

生活歴 : 喫煙歴は65歳まで20本/日を45年間。飲酒は焼酎2合/日を週3日。

搬入時に行った静脈採血の結果は以下のとおりであった。

検査所見 : 血液所見：赤血球 322 万、Hb 10.1 g/dL、Ht 31 %、白血球 8,800、血小板 11 万。血液生化学所見：AST 92 U/L、ALT 78 U/L、尿素窒素 82 mg/dL、クレアチニン 9.8 mg/dL、血糖 228 mg/dL、Na 142 mEq/L、K 9.8 mEq/L、Cl 112 mEq/L、Ca 8.6 mg/dL。CRP 2.3 mg/dL。

45 院内救急コールで駆け付けた内科および外科病棟当直医が、救命救急センターの研修医、指導医とともに心肺蘇生を継続した。その後も心拍は再開せず、患者の死亡が確認された。かかりつけ医に連絡をとると、この患者は糖尿病腎症による慢性腎不全のため、近々人工透析の導入予定で、最終受診は1週間前であった。

死亡診断書を交付できないのはどれか。

- a 死亡確認を行った内科病棟当直医
- b 救命処置を補助した外科病棟当直医
- c 電話で死亡報告を受けたかかりつけ医
- d 救命処置を行った救命救急センターの指導医
- e 救命処置を行った救命救急センターの研修医

次の文を読み、46、47 の問いに答えよ。

72 歳の男性。膀胱手術後に通院中である。

現病歴 : 6 か月前に膀胱の手術を受けた。術後 6 か月検査の結果、他臓器に転移が見つかり、余命 3 か月との告知を受けた。

既往歴 : 60 歳から高血圧症、62 歳から脂質異常症で内服治療中。

生活歴 : 喫煙は 20 歳から 20 本/日。飲酒は機会飲酒。息子夫婦と同居している。

家族歴 : 父が高血圧症、心筋梗塞。

現 症 : 意識は清明。身長 165 cm、体重 48 kg。体温 36.8℃。脈拍 72/分、整。血圧 134/74 mmHg。呼吸数 20/分。SpO₂ 98 % (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腹部正中に手術痕を認める。

46 患者は主治医に「先生、もうこれからどうしていいかわからないよ」と訴えた。

医師の応答として適切なのはどれか。

- a 「私もわからないですよ」
- b 「現実を受け止めてください」
- c 「もう少ししっかりしてください」
- d 「ご近所の医療機関に変わってください」
- e 「そうですね。今後のことは一緒に考えましょう」

47 主治医は膀胱癌に対する支持療法 X のランダム化比較試験の研究報告を見つけた。

支持療法 X の介入群 (A 群) と対照群 (B 群) との比較 (別冊 No. 6) を別に示す。

正しいのはどれか。

- a A 群の 6 か月での生存率は約 60 % である。
- b B 群の 2 か月での生存率は約 90 % である。
- c A 群の生存期間の中央値は約 2 か月である。
- d B 群の生存期間の中央値は約 3 か月である。
- e 支持療法 X には延命効果があるといえる。

別 冊

No. 6

次の文を読み、48、49の問いに答えよ。

68歳の男性。一過性の意識消失を主訴に来院した。

現病歴 : 買い物中に突然目の前が真っ暗になり、意識を失って転倒した。居合わせた家族によると30秒後に速やかに意識を回復したとのことであった。そのまま家族に連れられて受診した。

既往歴 : 10年前から高血圧症で自宅近くの診療所に通院中。

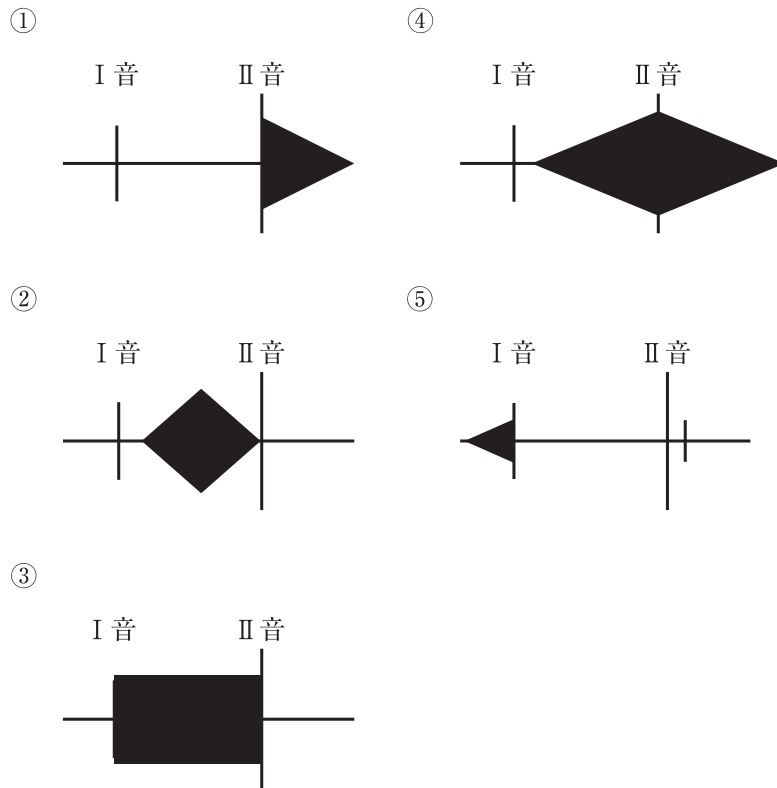
生活歴 : 喫煙は10本/日を68歳まで40年間。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父親は70歳時に大腸癌で死亡。

48 追加して確認すべき情報で**重要度が低い**のはどれか。

- a 内服薬
- b 動悸の有無
- c 胸痛の有無
- d 黒色便の有無
- e 頭位変換時のめまいの有無

現 症 ： 意識は清明。身長 168 cm、体重 64 kg。体温 36.1℃。脈拍 88/分、整。
 血圧 128/88 mmHg。呼吸数 16/分。SpO₂ 98 % (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。心臓の聴診で胸骨右縁第 2 肋間を最強点とするⅣ/Ⅵの駆出性雑音を認める。心音・心雑音の模式図を以下に示す。



49 この患者で予測されるのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

